

令和2年度(2021年3月)天皇誕生日祝賀レセプション
総領事挨拶

ご来賓の皆様、ご列席の皆様、
こんばんは！

本日は、天皇誕生日祝賀レセプションに、ご多忙の中ご臨席賜り、心よりお礼申し上げます。今上陛下におかれましては、2月23日に61歳のお誕生日をお迎えになりました。陛下が2019年5月1日に御即位され、我が国の元号は「平成」から「令和」へと変わりました。日本では、天皇の即位時にその新たな時代の理想となる言葉が選ばれ、それが元号として定められます。「令和」という元号は、現存する最古の和歌集である万葉集の文言から引用されたもので、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められております。

本日は、今上陛下が御即位なされた後、中国・山東省で行う初めての天皇誕生日祝賀レセプションとなります。豊かな文化をはぐくむこの中国・山東省の地で、まさしく皆様と美しい信頼と友誼の心を寄せ合いながら、陛下のお誕生日を共々にお祝いできますことを、大変嬉しく存じます。

昨年9月、菅総理大臣と習近平国家主席は電話会談を行い、共に日中関係を発展させていくことを確認されました。かかる中、山東省は豊かな自然と力強い経済力を有し、東アジアのみならず世界へと貿易・物流のネットワークを拡大しており、我が国にとり強力なパートナーであり続けることは間違いありません。昨年、日本をテーマとした「対話山東」等の交流会が複数の都市で開催されました。またこの1年余り、劉家義書記はじめ多くの方々にお会いしましたが、皆様の対日関係推進への積極的な熱意を感じる事ができいつもありがたく思っています。

世界でコロナ禍が常態化する中、様々な検討がなされておりますが、本年の東京オリンピック・パラリンピック、来年の北京冬季オリンピック・パラリンピック、さらには来年の日中国交正常化50周年を迎えます。この機会を捉え、長期に亘る日本と中国の確固とした友好関係強化を模索することが重要です。世界が一刻も早くウイルス蔓延を封じ込め、日本と山東省がより質の高い交流を行い、将来的な日中交流再開の原動力となることを願ってやみません。

今月の11日、我が国で未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から、丁度10年を迎えました。当時、中国とりわけ山東省の皆様や在留邦人から心温まるお見舞いやご支援を頂きましたことは、今でも私達の心に深く刻まれており感謝に堪えません。被災地では、様々な課題もありますが、お互いに支え合いながら、勇気と希望をもって、復興への道を力強く着実に歩んでいます。コロナ禍が収束した後、中国より多くの方々が東北へ訪問して頂き、自然の美しさや美味しい郷土料理等を堪能され

つつ、再生の道を歩んでいる姿をご覧になっていただければと存じます。

当館は今年1月で開館12周年を迎えました。これまでの山東省の友人の皆様の温かいご支援に対し深く感謝申し上げますと共に、今後とも、日本と山東省との協力関係の発展に向けて全力で取り組んで参りますので、引き続き皆様方のご支援をいただきますようお願い申し上げます。

本日の会場では、多くの方々の協賛のもと、日本の食品等を提供いただいているほか、和食の代表であるお寿司や日本酒もご用意しております。また、美しい生け花や音楽演奏も含め、多方面にわたる日本の魅力をお楽しみいただくとともに、ご列席の皆様のご自由な交流の場としていただければ幸いです。

最後になりますが、皆様と共に改めて天皇・皇后両陛下の末永い御健勝を今一度お祈り申し上げますとともに、御列席の皆様の御健勝と日本と山東省との各分野における交流の更なる発展を心より祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)